

古都大宰府を守る会設立趣意書

一 大宰府史跡の特質

大宰府は、わが国の古代における九州全域を統轄するとともに、あわせて大陸文化の導入、外交の衝にあたる重要な拠点として大和朝廷によって設立され、「遠の朝廷」とも称されました。その起源は平城京よりも古く、飛鳥の諸宮とも並ぶ時代にまでさかのぼるといわれ、鎌倉時代にいたるまで、都督府として存続しました。こうした歴史的遺構には特別史跡「大宰府跡」を中心に、特別史跡「大野城跡、水城跡」、史跡「観世音寺境内および子院跡、大宰府学校院跡、筑前国分寺跡、国分瓦窯跡」など、大宰府史跡は広範な地域にまたがっています。

このように、万葉時代から八世紀にわたって、西日本における政治、外交、文化の一大中心地であったことを示す貴重な国民的遺産であり、歴史的追体験の場でもあります。

二 大宰府地域の現状

これらの地域は、北に四王寺山、南は天拝山、基山、東は宝満山、西は水城跡と、これに連なる低い丘陵地帯で囲まれ、豊かな緑の自然環境のなかにあります。

しかるに、この豊かな歴史と自然に囲まれた地域も最近の福岡大都市圏の発展にともない、急速に都市化し、住宅地造成が各所にすすめられているばかりでなく、この地域が自然地形による制約のため、主要交通機関が特別史跡「水城跡」周辺に集中しています。

三 会設立のねらい

このような現状から、一度こわされれば二度とかえらぬ大宰府の史跡と環境を、全国的視野に立った多くの人たちの力で守りつづけるため、ここに「古都大宰府を守る会」を設立することにいたしました。

史跡と自然環境の調和による良好な生活空間の拡大は、今や国民的課題ともいえますから、よろしくご賛同の上、ご協力賜りたくお願い申し上げます。

昭和四十八年九月